

令和4年2月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,445	8,757	4,427	4,330	△ 28	△ 25
2 千 石	3,914	6,639	3,407	3,232	△ 3	△ 7
3 内 山	5,535	7,860	4,190	3,670	△ 11	△ 13
4 大 和	3,414	6,660	3,263	3,397	△ 9	△ 4
5 上 野	7,385	15,484	7,603	7,881	15	7
6 高 見	7,205	13,188	6,292	6,896	△ 27	△ 25
7 春 岡	6,822	11,002	5,757	5,245	5	0
8 田 代	11,165	21,835	10,413	11,422	△ 29	△ 35
9 東 山	10,275	19,318	9,448	9,870	△ 11	8
10 見 付	4,412	8,275	4,164	4,111	19	21
11 星 ケ 丘	3,464	6,812	3,051	3,761	△ 3	△ 4
12 自 由 ケ 丘	3,588	7,312	3,316	3,996	△ 7	△ 11
13 富 士 見 台	6,489	15,288	6,976	8,312	△ 1	△ 16
14 宮 根	3,743	8,050	3,723	4,327	△ 11	△ 20
15 千 代 田 橋	3,692	8,333	3,939	4,394	△ 7	△ 5
千 種 区 計	86,548	164,813	79,969	84,844	△ 108	△ 129
R3.2.1	86,439	165,198	80,212	84,986	△ 18	△ 78
対 前 年 比	109	△ 385	△ 243	△ 142	△ 90	△ 51
名 古 屋 市	1,128,709	2,322,709	1,140,644	1,182,065	△ 605	△ 1,285
愛 知 県 (R4.1.1)	3,259,061	7,507,388	3,739,761	3,767,627	△ 1,896	△ 4,770

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
	94	170	△ 76	738	791	△ 53

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の性比の状況

今回は、千種区の性比（女性の人口を100とした場合の男性の人口数）の状況をみてみます。

図1：名古屋市全体および各区の性比（各年10月1日）

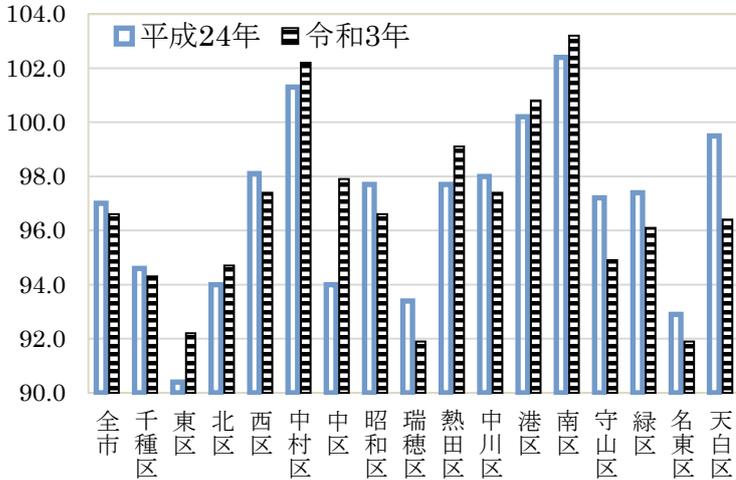


図1は名古屋市全体と各区の性比を示しています。千種区の令和3年10月1日現在の性比は94.3です。これは名古屋市全体（96.6）を下回っており、16区中13番目の値となっています。性比が最も高いのは南区（103.2）、最も低いのは瑞穂区、名東区（91.9）です。平成24年と比較すると千種区は94.6から0.3下がっており、名古屋市全体では中区が一番上がって3.9増えています。

図2：年齢5歳階級別の性比（令和3年10月1日）

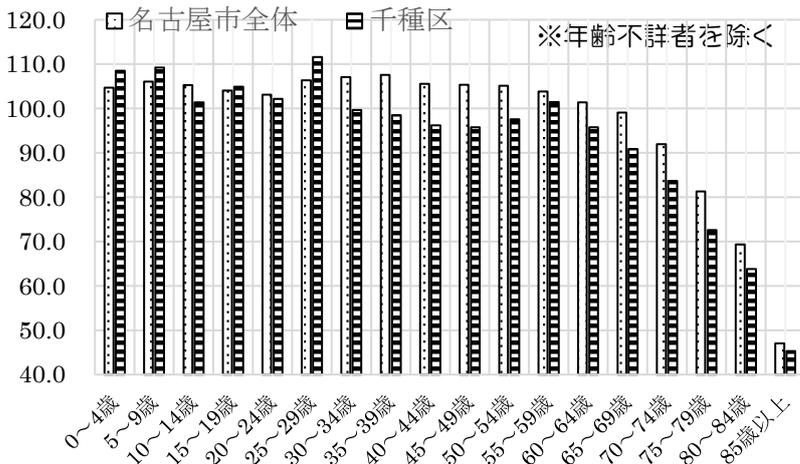


図2では、名古屋市全体と千種区の年齢5歳階級別の性比を示しています。千種区では0歳～34歳の区分で平均105.4と高い一方、35歳以上の区分平均は85.6となっています。一方、名古屋市全体では0歳～64歳の全ての区分で100を超える数値となっています。

65歳以降の年代では100を下回り右肩下がり減少傾向にあります。

図3：各学区別の性比（各年10月1日）

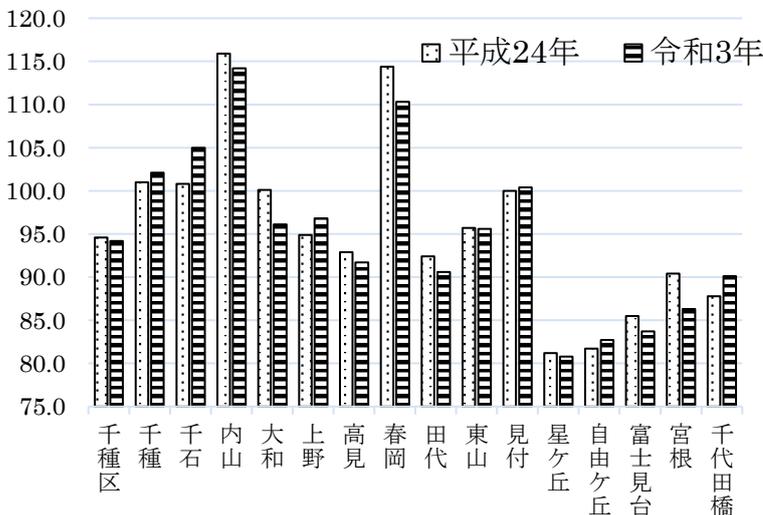


図3では、千種区内の各学区の性比を示しています。令和3年10月1日現在で性比が最も高いのは内山学区（114.2）、最も低いのは星ヶ丘学区（80.8）でした。

また、平成24年10月1日現在の性比が最も高いのは同じく内山学区（115.9）、最も低いのは星ヶ丘学区（81.2）でした。両年を比較すると、10年間で性比が高くなった学区は6学区、低くなった学区は9学区でした。